

# 日本イエズス会版『サルヴァトル・ムンヂ』 ポルトガル語全訳注

—第七誡「偷盗すべからず」に関わる9つの尋問—

Tradução integral portuguesa do *SALVATOR MVNDI* ou  
*CONFESSIONARIUM* (1598) editado pela Companhia de Jesus no  
Japão: nove perguntas a serem feitas pelo Confessor acerca do  
Sétimo Mandamento de Moisés

日 埜 博 司

## 訳者はしがき

日本イエズス会が 1598 年に刊行した『サルヴァトル・ムンヂ』という書物を紹介する。これは聴罪司祭が信徒の懺悔(カトリック用語として正しくは告解)を引き出すため作成された、いわば「聴罪のための手引書」と称して差し支えない書物である<sup>1</sup>。

図版に示す扉表の中央には、イエズス会紋章が配され、その上段・下段にそれぞれ *SALVATOR MVNDI* (『地上の救い主』)とあり、通常これが書名として慣用されている。しかし扉裏には *CONFESSIONARIUM // IN COLLEGIO IAP- // NICO SOCIETATIS. // IESV. // Cum facultate Superiorum // ANNO. M.D.XCVIII* (コンヘシヨナリウム。イエズス会の日本コレジヨにおいて。スウペリヨルの御許しを蒙りて。1598 年)と見え、この *CONFESSIONARIUM* (『告解書』)こそがこの書物の実際の内容を示している。

---

<sup>1</sup> 日本イエズス会版『サルヴァトル・ムンヂ』は、ローマのカサナテンセ文庫(Biblioteca Casanatense, Roma)が所蔵する。キリシタン版の至宝として知られる『天草版 平家物語』と『エソボのファブラス』がブリティッシュ・ライブラリー(British Library, London)にいずれも天下の孤本として架蔵されているように、『サルヴァトル・ムンヂ』もカサナテンセ文庫以外にはその所在が知られない。



『サルヴァトル・ムンヂ』扉表



『サルヴァトル・ムンヂ』扉裏

ヨーロッパ文字は扉以外にはまったく用いられておらず、本文は行草体の漢字かな交じりの日本文字で印刷してある。刊行地は長崎と推定されるものの、未詳である。

告解とは、カトリック教会における七<sup>サクラメントス</sup>秘蹟のひとつで、悔悛の秘蹟ともいう。洗礼を受けた後の罪を聴罪司祭が糾明し、痛恨の念をもって唯一神——デウス——の代理者としてのパードレ(司祭)へそれを告白し、デウスと和解し、罪を償い善に移る決心をし、その援けにより罪の赦しが与えられる、という秘蹟である。告解とはまた、人にではなく、デウスに対して行なうべき行為であること、また、感情の誇張を極力退けることが肝要であるとの観点から、告解と懺悔とは本来別々のものである、というのがカトリックの主張である。「聖霊をうけよ。汝ら誰の罪を赦すとも其の罪ゆるされ、誰の罪を留むるとも其の罪とどめらるべし」(ヨハネ福音書)20章22-23節)というキリストの言葉にもとづき、使徒とその後継者である司教・司祭に罪を赦す権限が与えられた、とするカトリックの考え方に対し、プロテスタントは、罪は告白や償いで赦されるものではないとして、告解の秘蹟を否定し、個人の内面的な悔い改めを勧める。

『サルヴァトル・ムンヂ』は、第1章から第3章で、告解の秘蹟の意義とそれに与かる心得とを説き、第4章・第5章で「十のまだめんとす」(いわゆるモーセの十誡)、第6章には「七つのもるたる科」

(7つの重罪)のそれぞれの条に関して「こんしゑんしや(良心。Consciência)を糺すべき条々」を列挙する。第7章の「善作に日を送るべき為に保つべき条々」には食前・食後の「おらしよ」(祈禱。Oração)を収め、それについても一家が罪に陥らぬよう、「でうすのがらさ」(神の恩寵。Graça de Deus)を請い奉るよう勧める。巻末に、巻中の洋語解と漢字の訓とがまとめて掲げてある。

本稿では、『サルヴァトル・ムンヂ』の第4章・第5章に見える「十のまだめんとす」から「第七のまだめんと」すなわち「偷盗すべからず」の項目に収められた聴罪司祭(コンヘソル。Confessor)の9つの問い掛けを紹介し、それぞれに葡萄牙語訳を添えてみることにする。「第七のまだめんと」すなわち第七誠に関してコリヤードが採録した10の告解は、幸い、他のすべての箇所とともに、ポルトガル語訳注を附して掲載を終えているから(「コリヤード『懺悔録』ポルトガル語全訳注——第七誠「偷盗すべからず」」に関する10の告解『流通経済大学論集』通巻第148号所収)、適宜それを対照していただければ、双方間にどの程度の対応関係が存在するか、を容易に確かめることができる。

前記9つの問い掛けをポルトガル語に直すに際して踏む手順と、それにあたって気づいたことを少々書き留めておく。

①『サルヴァトル・ムンヂ』については、雄松堂書店が1978年に海老沢有道の解説を附し「南欧所在 吉利支丹版集録」の一冊として影印本を刊行しているので、その影印を掲げてオリジナルの様態を示す。

②その全文翻字については、松岡洗司の貴重な業績「慶長三年耶蘇会版サルバトル・ムンヂの本文と索引」(『上智大学国文論集』6, 1973年)がある。さらに大塚光信編、岩波文庫版『コリヤード 懺悔録』(1986年)には、十誠と七大罪に関わる箇所のみを翻字が「参考」として掲げてある。基本的にこのふたつの業績に拠つつ、訳者なりの方法で全文翻字を新たに作成する。その際、原文にほとんどない句読点を配し、清音を濁音に直し、ひらかなをルビの形で漢字に開き、逆に漢字で記された箇所にはひらかなのルビを振る等の措置を施した。

③上述のとおり、本文の日本語は流麗な行草体で記されている。訳者にはこのような日本語を自由自在に読むことはできない。ただしこれの解説が専門家にすら容易なものでないことは、先述の翻字双方の間に微妙な異同が認められることから判明する。しかも本質的にかなり異質な解釈を誘発するような異同というか齟齬も、ごく稀にはあるが存在する。私なりにテキストを整定することの必要性を覚えるゆえんはそこにある。

今回紹介しようとする「第七のまだめんと」には、第一の問い掛けに見えたとおり、たったひとつの漢字をどう読むかによって意味が変わる、というよりも意味がはっきりする、というケースが見られる。より正確なテキストの整定を期し、文意の把握をめぐる本質的な誤解をなくし、ひいては大筋において本旨からの逸脱なきポルトガル語訳を得るため、永く流通情報学部の同僚であり2007年3月に定年退職を迎えられた水野恵子先生(日本語史)の変わらぬ御指導を仰ぐことができた。

④キリシタン宣教師が16～17世紀日本語を写すに際して用いたポルトガル語式ラテン文字による最もオーソドックスと思われる表記法を用いてテキストを再構成する。その具体的方法は、拙稿『コリヤード 懺悔録』ポルトガル語全訳注——第四誠「汝の父母に孝行すべし」に関わる6つの告解」(『流通経済大学論集』通巻149号所収)に記述した。ただし「キ」「ケ」「ギ」「ゲ」「ヅ」の5つの文字に限っては異なる規範を設け、それらに関しては、通事バテレンとして著名なジョアン・ロドリゲスがその著『日本小文典』(日笠博司編訳, 新人物往来社, 1992年。原本は1620年, マカオ刊)で採用した独自の方法にもとづき“ki”“ke”“ghi”“ghe”“dzu”とそれぞれ表記する。

⑤それぞれの現代語訳を附す。

⑥それぞれの葡萄牙語訳を作成するが、それに際して採る態度なり方法なりは『コリヤード 懺悔録』ポルトガル語訳を作成したときのそれに準ずる。その一端は「コリヤード『さんげろく』葡語訳注雑感——在外研修余滴として」(『流通経済大学社会学部論叢』通巻第30号所収)に記述したとおりである。

続いて、『サルヴァトル・ムンヂ』を簡単に紹介し、順次その日本語を葡萄牙語に訳してみようと思えるわけを略述する。

訳者は、イスパニア人ドミニコ会士ディエゴ・コリヤードが編んだ『懺悔録』に収載された日本人信徒の日本語による告解にポルトガル語の全訳注を附し、上梓のためのウォーミングアップのつもりで、その全容を学内誌に連載し終えた。全11回を要した。そのための解題をもらもろの視点から記述する過程で、『懺悔録』に収載された日本人信徒の告解は必ずしもオリジナリティーを有するものではなく(姉崎正治説)、イエズス会によって編纂された告解の聴解ならびに訓誡マニュアルのようなものがコリヤードの渡日以前すでに存在しており(ただしこれはまったくの仮説であって、物的証拠も史料裏づけもない)、コリヤードは自著と称する『懺悔録』を編むにあたり、そうしたイエズス会版のマニュアルを換骨奪胎したにすぎないのではないか、という疑惑を抱く向き(助野健太郎説)のあることが判明した。

しかし『コリヤード 懺悔録』を紹介した両先達の抱いたこの批判的見解の当否を糺すことに、訳者はさしたる興味がない。それよりも『サルヴァトル・ムンヂ』に見える信徒への問い掛けと、『懺悔録』に見える信徒の告解なり応答なりが、どの点において呼応し、どの点において呼応しないか、それを再確認しておくことのほうがよほど建設的な試みであるように思われる。

さらに言えば、『コリヤード 懺悔録』に照応する内容を含むかもしれぬ『サルヴァトル・ムンヂ』の関係箇所をポルトガル語へ訳しておくことは、それ自体、『コリヤード 懺悔録』を読む興味を高めるわざであるばかりではなく、日本におけるキリシタン布教に絡んで生じた特殊事情のかずかずをよりよく認識するための一助となりうるであろう。キリシタンに限定せぬ16世紀末の日本・日本人の社

会・文化・精神を探るための貴重な示唆が見出せるかもしれない(ただし、ここでの日本・日本人とは、長崎を中心とする西九州——キリシタンには「シモ」[Ximo]と呼ばれた——、あるいはそこから範囲を広げても畿内——同じく「カミ」[Cami]と呼ばれた——に至るまでの狭義の西日本と、そこに住む人々だけを含む、と考えるのが無難であろう)。

今回紹介する 9 つの尋問は、上述のとおり、「偷盗すべからず」に関するものであるが、その範囲は思いのほか広い。利子(特にウスラと呼ぶ暴利)の徴取<sup>2</sup>や通貨の偽造、約束していた仕事の不履行などがこれに包括されており、中世ヨーロッパのカトリック教会が考えた「盗み」の概念を窺ううえで有効であろうと思う。

## 第七のまだめんと (Acerca do sétimo mandamento)

### PRIMEIRA PERGUNTA ACERCA DO SÉTIMO MANDAMENTO

一、何なりとも、物を盗みたる事あらば、其過<sup>その</sup>\*を申すべし。其科<sup>そのとが</sup>のかろき<sup>(軽)</sup>・をもき<sup>(重)</sup>はコンヘソルより糺<sup>ただ</sup>し教<sup>をし</sup>へ給<sup>たま</sup>ふべければ、かへしわきまゆる儀<sup>(返)</sup>も万事<sup>(弁)</sup>その御いけん<sup>ぎ</sup>にまかすべし<sup>ばんじ</sup>。

\* 松岡洗司は「色」と読む。松岡の読みに従うならば、もしこの罪を犯したのならその盗品を具体的に挙げよ、ということになるか。ポルトガル語訳ではこの読みに仮に従っておく。

1. Nannari tomo monouo nusumi taru coto araba, sono irouo mōsu bexi. Sono togano caroki<sup>3</sup>

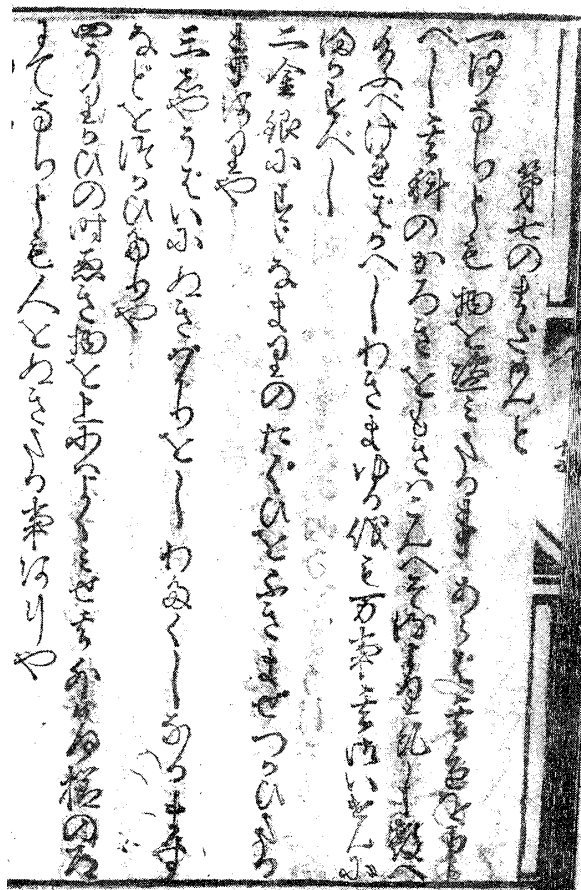
<sup>2</sup> Cf. Takase Kōichirō, “Actividades Económicas dos Jesuítas no Extremo Oriente dos séculos XVI e XVII. Especialmente em torno da Usura”, tra. Hino Hiroshi, Ryūtsū Keizai Daigaku, Ryūtsūjōhōgakubu Kiyō, n. 3, 1998. 高瀬弘一郎「16・17 世紀極東におけるイエズス会士の経済活動とキリスト教経済思想——とくにウスラの問題をめぐって」(流通経済大学『流通情報学部紀要』通巻 3 号, 1998 年)参照。本論の内一～七は、高瀬弘一郎『キリシタン時代対外関係の研究』(吉川弘文館, 1994 年)所収の「キリシタン布教におけるウスラ徴取の問題」が基盤となっているが、それを発展的に踏まえ、八～一〇では、教会側未刊史料に基づき、日本イエズス会が 17 世紀以降ウスラ付きの資金借入れに走ったり、逆に、信用力のある者へは高利でかねを融通することをもくろんだりした、等のエキサイティングな史実が初めて明かされる。

<sup>3</sup> Caroi [軽い]. Couse leue (Vocabulario da Lingoa de lapam com a declaração em Portugues, feito por alguns padres, e irmãos da Companhia de Iesu, Nangasaqui, Collegio de lapam da Companhia de Iesus, 1603; Supplemto deste Vocabulario impresso no mesmo Collegio da Cōpanhia de Iesu, 1604, f.41).

vomoki<sup>4</sup>ua confessor yori tadaxi voxixe tamō bekereba, cayexi, vakimayuru ghi<sup>5</sup>mo, banji sono go ikenni macasu bexi.

一、何であれ盗みをしたことがあるなら、その盗品を具体的に申すべし。その罪の軽重がどのくらいのものかは、コンヘソルが糾し判断してお前に教えるであろう。それらを返却するにせよ弁済するにせよ、何につけてもコンヘソルの意見に従うべし。

1. Se furtaste qualquer coisa que seja, confesses o pecado e enumeres quais são as coisas por ti furtadas. O confessor dignar-se-á de inquirir-te e julgar como é a gravidade dos respectivos furtos. Quer as devolvas, quer as recompenses, deves obedecer, em tudo, às admoestações do confessor.



『サルヴァトル・ムンチ』第七のまだめんと

一から四まで

<sup>4</sup> Vomoi [重い]. *Cousa pesada*. ¶ *Item, Cousa grãde, ou graue falando de cousas incorporaes. Vi, Vomoi toga* [重い科]. *Graue peccado. Vomô* [重う]. *Adu. Vomosa* [重さ] (*Vocabulario*, f.279v).

<sup>5</sup> Gui [儀]. *Vsase às vezes em lugar de Coto* [事], *i, cousa* (*Vocabulario*, f.117).

SEGUNDA PERGUNTA ACERCA DO SÉTIMO MANDAMENTO

二、金銀にすゞ・なまりのたぐひをふきませ、つかひたる事ありや。

2. Kinghinni suzu<sup>6</sup>, namari<sup>7</sup> no taguiuo fukimaje<sup>8</sup>, tçucaí taru coto ariya?

二、金銀に錫・鉛やその類を吹き混ぜたり、そうしたものを実際に使ったりしたことがあるか。

2. Fundiste estanho, chumbo, e outros semelhantes e mesclaste-os no ouro e na prata? Fizeste uso de tal metal fingido?

TERCEIRA PERGUNTA ACERCA DO SÉTIMO MANDAMENTO

三、しやうばいにぬきばかりをし、わたくしなるますなどをつかひたりや。

3. Xõbaini nuki bacari<sup>9</sup>uo xi, vatacuxi naru masu<sup>10</sup> nadouo tçucaí tariya?

三、商売にインチキの秤を用いたり、私的に偽造した枡などを使ったりしたことがあるか。

3. Utilizaste uma balança falsa, ou fizeste uso de um «Masu», ou seja, copo quadrado de madeira para a medida, copo esse que se encontra falsificado por ti próprio?

QUARTA PERGUNTA ACERCA DO SÉTIMO MANDAMENTO

四、うりかひの時、悪しき物を上にはよくみせ、其外如何様の道にてなりとも、人をぬきたる事ありや。

4. Vricaino toki, axiki monouo vye niua yocu mixe, sono foca icayõno michi nite nari tomo,

<sup>6</sup> Suzu [錫]. *Estanho, ou calaim*. ¶ *Item, bules, ou picheis de calaim que seruem de vinho* (Vocabulario, f.233).

<sup>7</sup> Namari [鉛]. *Chumbo* (Vocabulario, f.175v).

<sup>8</sup> Trata-se do verbo composto de dois verbos: «Fuqi», isto é, raiz do verbo «Fuqu» [吹く] e «Mazuru» [混ずる] cuja raiz é «Maje» [混ぜ]. Cf. Fuqi [吹き], Fuqu [吹く] Fuita [吹いた]. *Vt, Caneuo fuqu* [金を吹く]. *Fundir metal* (Vocabulario, f.109); Maje [混ぜ], Mazuru [混ずる], Majeta [混ぜた]. *Misturar* (Vocabulario, f.151).

<sup>9</sup> Facari [秤]. *Medida, ou hũa balançasinha que tem hum sò peso que mudão pera diuersas partes a que chamão Dachem* (Vocabulario, f.75).

<sup>10</sup> Masu [枡]. *Medida de medir arroz, trigo, &c* (Vocabulario, f.152v).

fitouo nuki<sup>11</sup> taru coto ariya?

四、売買に際して、粗悪品を表面上良品のように見せかけたり、その他どんなやり方であっても、他人を騙したりしたことがあるか。

4. Fizeste, aquando da compra e venda, com que uma mercadoria ruim parecesse boa, ou enganaste outrém de uma maneira qualquer?

#### QUINTA PERGUNTA ACERCA DO SÉTIMO MANDAMENTO

五、物を<sup>もの</sup>貸<sup>(貸)</sup>すに<sup>だうり</sup>道理<sup>(外)</sup>には<sup>り</sup>づれて<sup>(取)</sup>利<sup>こと</sup>をとりたる事ありや。

5. Monouo casuni dōrini fadzurete riuo tori taru coto ariya?

五、物を貸すに際して法外な利子を取ったことがあるか。

5. Cobraste o juro fora de razão aquando do empréstimo de alguma coisa?

此儀<sup>このぎ</sup>に<sup>つい</sup>付てはコンヘソルより<sup>をし</sup>教<sup>たま</sup>へ<sup>したが</sup>給ふべければ、それに<sup>したが</sup>随ひてすべし。

Cono ghini tçuiteua Confessor yori voxie tamō bekereba, soreni xitagaite subexi.

この件についてはコンヘソルからしかるべきお教えがあるだろうから、それに従って対処せよ。

Há-de haver uma certa orientação e admoestação por parte do Confessor, pelo que deves proceder de acordo com ela.

#### SEXTA PERGUNTA ACERCA DO SÉTIMO MANDAMENTO

六、人<sup>ひと</sup>の無理<sup>むり</sup>に<sup>(損)</sup>そん<sup>だいもく</sup>をする題目<sup>だいもく</sup>となりたるや。

6. Fitono murini sonvo suru daimocuto nari taruya?

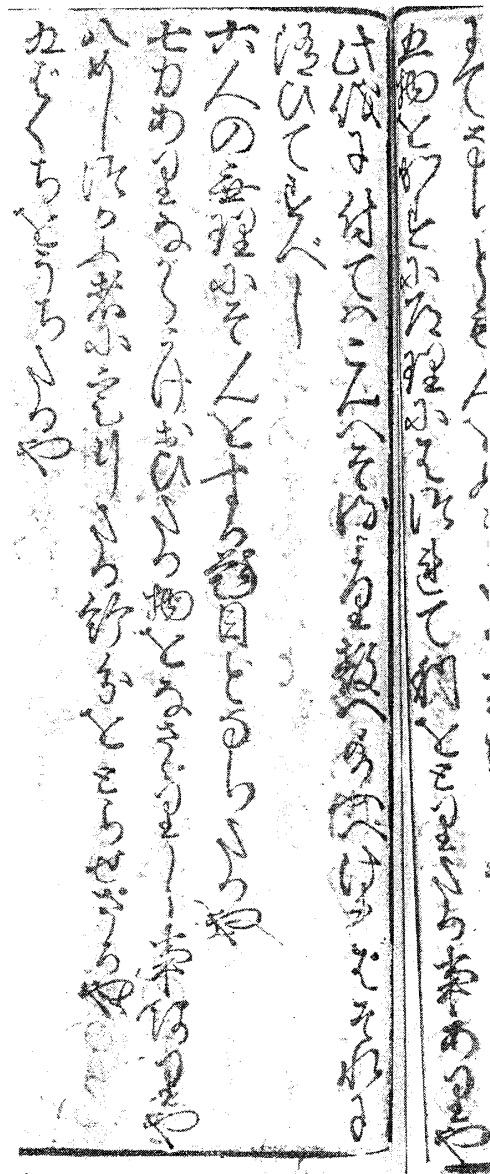
六、他人が理不尽にも損害を蒙らざるを得ぬような何かに手を染めたことがあるか。

6. Efectuaste alguma coisa de forma a que forçasse outrém a receber o dano?

---

<sup>11</sup> Nuqi [抜き], Nuqu [抜く], Nuita [抜いた]. *Enganar* (Vocabulário, f.187v).





『サルヴァトル・ムンヂ』「第七のまだめんと」  
五から九まで

#### SÉTIMA PERGUNTA ACERCA DO SÉTIMO MANDAMENTO

七、力<sup>ちから</sup>ありながら<sup>(請)</sup>うけお<sup>(負)</sup>ひたる物<sup>もの</sup>をなさざりし事<sup>こと</sup>ありや。

7. Chicara ari nagara, vkeuoi<sup>12</sup> taru monouo nasazarixi coto ariya?

七、可能であるにもかかわらず、請け負った仕事をやり遂げなかったことがあるか。

7. Não cumpriste o trabalho por ti empreitado apesar de ser possível fazê-lo?

<sup>12</sup> Vqevoui [請け負ひ], Vqevô [請け負ふ], Vqevôta [請け負うた]. *Deuer. ou ficar deueno* (Vocabulario, f.287v).

八、めしつかふ者に<sup>(召使)</sup>もの<sup>きだま</sup>に<sup>きふん</sup>定めたる給分を<sup>(取)</sup>とらせざるや。

8. Mexitçucõ mononi sadamaritaru kiübun<sup>13</sup>vo toraxe zaruya?

八、召使いの者に規定の給金を取らせなかったことがあるか。

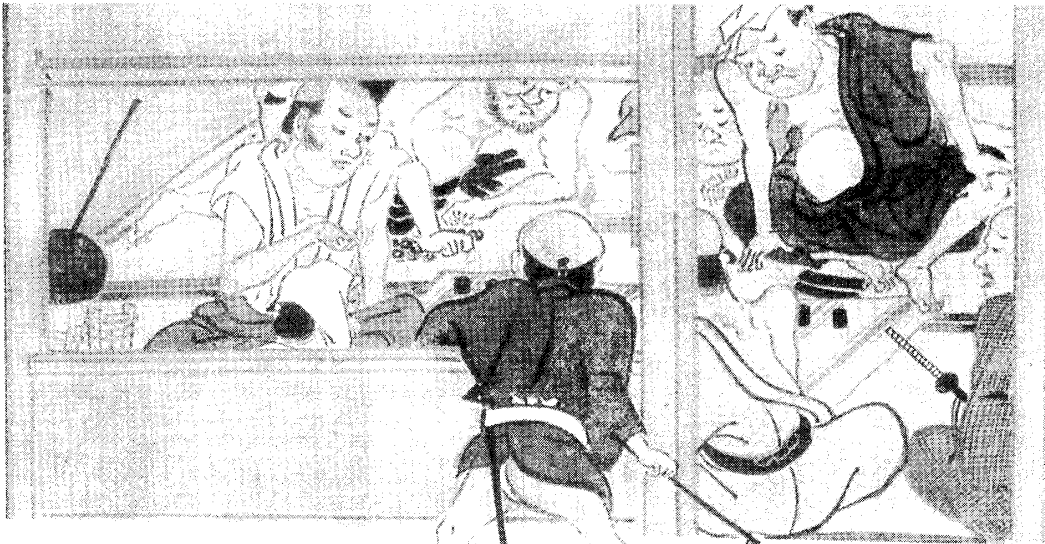
8. Não pagaste o ordenado devidamente estipulado aos teus criados?

九、<sup>(博奕)</sup>ばくちを<sup>(打)</sup>うちたるや。

9. Bacuchiuo vchi taruya?

九、博奕を打ったことがあるか。

9. Jogaste a dinheiro?



博奕に興じる

英一蝶筆『四季日待図巻』(東京, 出光美術館蔵)。山本博文監修『ビジュアル NIPPON 江戸時代』(小学館, 2006 年)より

<sup>13</sup> Qiübun [給分]. *Estipendio, ou jornal*. ¶ Qiübunuo toru, l, dasu [給分を取る, あるいは, (給分を)出す]. *Tomar, ou dar este jornal* (Vocabulario, f.201).